

【ポスター発表】

障害者支援施設における安全な与薬支援方法の検討

—重度知的障害者の与薬事故と支援の現状をとおして—

○ 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 内山 聡至 (010019)

根本 昌彦 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園・009442)

キーワード：障害者支援施設、与薬支援、誤薬予防

1. 研究目的

近年障害者支援施設を利用する障害者の高齢化が進んでいる。高齢化にともない、生活習慣病罹患などにより服薬の増加、または服薬調整（減薬）の課題が生じる恐れもある。高橋ら（2019：43）は「高齢化と医療の進歩によって、障害者支援施設での使用薬剤数が今以上に増える可能性がある」ことに加え、「服薬手順の複雑化によって現場支援員の負担が増し、さらには服薬事故の増加につながる危険がある」¹⁾と述べている。

障害者支援施設における服薬支援の現状について、筆者ら（2020）は、薬が処方された後の薬の振り分けや在庫管理などの服薬管理プロセスに関する研究を行った²⁾。

本研究は、上記研究に続き、障害者支援施設の与薬支援に関する研究を行い、安全な支援方法や与薬事故防止に必要な視点等について検討することを目的とした。

なお、本研究における用語の定義は下記のとおりとした。

服薬：薬を飲むこと

与薬：支援者（または家族）が、利用者に対し、服薬を行うこと

誤薬：利用者が誤った種類、量、時間または方法で薬を内用・外用すること

2. 研究の視点および方法

■調査1：文献調査

- ・内容：障害者支援分野や高齢者支援分野、医療・看護分野における与薬支援の実践、誤薬事故の状況、誤薬事故防止に向けた取り組み等に関する文献

※文献を幅広く収集するため、まず誤薬事故に関する文献について収集し、そのなかから与薬事故に関する内容を抽出することとした

- ・対象：文献検索サイト（Cinii、J-STAGE、医中誌）

■調査2：ヒアリング調査（抽出）

- ・内容：障害者支援施設における与薬支援の実態、課題、与薬事故防止の取り組み等
- ・対象：障害者支援施設4カ所の薬に関する担当支援員およびチームリーダー

3. 倫理的配慮

本研究は、国立のぞみの園調査研究倫理審査委員会で承認(02-4J-01)を得て行った。

4. 研究結果

調査1において、2011～2021年の期間で検索した結果、「誤薬」and「知的障害者」では、J-STAGE：2件、CiNii：0件、医中誌：3件、「誤薬」and「高齢」では、J-STAGE：92件、CiNii：2件、医中誌：349件であった。このうち、「服薬管理」「与薬手順」「安全策」「与薬事故対策」に関連した内容の文献を選定したところ、11本の文献を抽出した。

調査2において、施設全体の服薬者率はどの施設においても9割を超えていた。与薬支援にかかる担当者について、看護師が与薬支援を行っている施設はなく、全て支援員が行っていた。調査で得られた回答を「安全な与薬支援方法、与薬事故防止対策」の視点から分析を行った結果、「負担の軽減」「業務に集中できる環境設定」「組織的な改善・チェック体制の構築」「薬に関する専門性」といった4つのカテゴリと16のサブカテゴリを導き出すことができた。各カテゴリの内容については表1のとおりであった。

表1 ヒアリング調査から得られた回答の分類

カテゴリ	サブカテゴリ
負担の軽減	・調剤方法の工夫・確認方法の工夫 ・場所の工夫・精神的負担・手順の工夫
業務に集中できる環境設定	・集中して与薬支援するための工夫 ・職員同士のサポート体制・集中しづらい環境
組織的な改善・チェック体制の構築	・事故情報分析の活用・誤薬事故の発生予防 ・与薬支援の質・マニュアルの周知・徹底 ・定期的なマニュアル改善の必要性
薬に関する専門性	・服薬の量的負担 ・薬に関する専門的関与の必要性

5. 考察

先行研究より与薬事故の要因には、集中できない環境、連携やコミュニケーション不足等があること、予防策には、集中できる環境作り、医療専門職との連携、ICTを活用した情報共有、定期的なツールやマニュアルの見直し等が必要であることが明らかとなった。

ヒアリング調査からは、薬に関する業務量の多さ、見守りしながらの与薬支援や他業務による中断等多忙かつ集中しづらい状況があること、どの施設においてもマニュアルを作成し、統一した支援ができるよう工夫していたものの、うまくマニュアルが活用されていない施設があること等が明らかとなった。

これらの結果より、安全な与薬支援や与薬事故防止のためには、与薬支援に集中できるような業務の見直しを図ること、与薬しやすい環境・ツールの工夫等の物理的な負担軽減に加え、与薬者の精神的な負担軽減の取り組み等が必要だと考えられた。負担軽減にあたっては、薬剤師や看護師等医療専門職の関わりが重要であることが考えられた。

また、支援現場のみの与薬事故防止、与薬環境改善の取り組みだけではなく、組織的に、マニュアルを定期的に確認、活用することやヒヤリ・ハット報告、事故報告等の報告を分析し、効果的に活用することも必要だと考えられた。

【参考文献】

- 1) 高橋和俊・祐川暢生・中野伊知郎ほか(2019)「第3章 医療の立場から1-障害者支援施設調査から見えてくるもの」市川宏伸編著『知的・発達障害における福祉と医療の連携』金剛出版, 43.
- 2) 内山聡至・駒井香菜子・塩ノ谷智恵美ほか(2020)「障害者支援施設における服薬管理に係る支援方法について-より安全で効率的な管理を目指して-」『国立のぞみの園紀要』13, 106-114.